



# 参加型授業通信 2020 第2号

## 本年度のホープ 佐々木慎之佑先生 教員生活初の研究授業

本年度、学卒の新採用として本校に赴任した佐々木慎之佑先生が、県教育委員会の高橋直樹主任指導主事をお迎えして、初任者研修の一環として、人生初の研究授業に取り組みました。

日時 7月13日(月) 6校時  
 生徒 1年2組 普通科41名  
 科目 国語総合  
 教材 「サイボーグとクローン人間」  
 山崎 正和

### 1 担当者より

#### (1) 授業のねらい

本単元は、筆者の意図を的確に読み取る力をつけることを目標としました。読み取りが正しくなされているかは、書かれている内容をわかりやすく、生徒自身の言葉で表現することを通して確認しました。授業のねらいは、本文中で取り上げられているサイボーグのように、科学・技術が我々に影響を与えて生活や思考を変えてしまった結果、本来の目的や願望からかけ離れてしまった例を考え、本文の大きなテーマである「逆説」を捉えることです。部分的に内容を読み取る活動がメインだった前時までとは違い、本文の内容に即して自らの柔軟な考えによって例を挙げることを通して、筆者の意図を捉える活動を中心に授業を進めました。



#### (2) 授業の反省

ワークシートの設定がおおざっぱな問い方になっているにもかかわらず、特に補足等せずに授業を進めてしまったことで、生徒が何をすべきかわからず戸惑ってしまったり、こちらが求めているものではないものを考えていたりする姿が散見されまし

た。柔軟な思考を促すという意図であらかじめ漠然とした形で示したものの、ある程度束縛するものがなければ、生徒は文章からかけ離れた事柄に着目し深めようとしてしまうおそれがあることを痛感しました。また、生徒間での共有の仕方についても改善しなければならないと感じました。日頃からシェアの形を変えて様々な手法を試していますが、時間をより有効に使うことと、一人でも多くの生徒の考えを全体で確認する時間を確保することを念頭に置いて活動の形を考えていきたいと感じました。その中で批判的に考えながら内容を深めていく態度も育てていきたいと感じました。



#### (3) 今後の展望

現代文は本授業で扱った「サイボーグとクローン人間」を終え、次の単元に入ります。まもなく夏期課外が始まりますが、さらに生徒の読解力と論理的思考力を養成すべく、情報を正しく受容し、自分が何を求められているのかを適切に判断しアウトプットしていく機会を確保したいと考えています。その中でたとえば他教科と連携し、様々な文章の内容と関連させながら思考し表現していく場面を用意していくことも想定しています。

### 2 高橋主任指導主事より

「サイボーグとクローン人間」を教材とし、本文の読み取り後に、科学・技術の発展が人間に影響を与えている点を考え、グループ内での発表を通して読解した内容の理解を深める授業でした。周囲をうならせる内容を記述していた生徒も多く、発展的な問いかけにより、生徒の深い思考につながっていると感じました。佐々木先生も用いていましたが、生徒同士の交流では、ICTを用いた方法が有効な場面も多いと思われますので、今後の一層の研究に期待したいと思います。